

2026 年 2 月 1 日 午前 10 時 30 分  
降誕節第 6 主日 主日礼拝  
司会 田村 啓  
奏楽 徳江由利

讃美歌・詩編交読・信仰告白では起立をしますが、  
お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)  
前 奏  
招きのことば ゼカリヤ書 14:6-9a  
讃美歌 16「われらの主こそは」 一 同  
交読詩編 126:1-6(P.147/143)

祈 り 司会者  
《関東教区お祈りカレンダー》  
鴻巣教会 所沢武蔵野教会 所沢みくに教会  
(主の祈り)

讃美歌 53「神のみ言葉は」 一 同

聖 書 新約:マルコ 4:1-9(P.66)

メッセージ『平和の種をまこう』  
祈 り 川上 盾 牧師

讃美歌 412「昔主イエスの」 一 同

献 金 一 同  
(献金感謝の祈り)

信仰告白(インドネシアの信仰告白①) 一 同

頌 栄 24  
祝 祷 川上 盾 牧師  
後 奏  
報告・紹介

＜招きのことば＞ゼカリヤ書 14:6-9a  
その日には、光がなく、冷えて、凍てつくば  
かりである。しかし、ただひとつの日が来る。  
その日は、主にのみ知られている。そのとき  
は昼もなければ、夜もなく、夕べになっても  
光がある。その日、エルサレムから命の水が  
湧き出で、半分は東の海へ、半分は西の海  
へ向かい、夏も冬も流れ続ける。主は地上を  
すべて治める王となられる。

《2月礼拝当番》 植松みよ 徳江由利  
大川原恵子 岩渕育雄  
猿谷富子 長谷川瞳

《今週の集会・行事》

◎ 本日礼拝後 うどん食堂 2 月定例役員会

◎ 本日-2 日 関東同信会(磯部温泉)

◎ 4 日(水) 10:30 聖研祈禱会(夜の部は録音)

◎ 7 日(土) 10:00 会堂清掃 B 組

《次週の主日》

◎ CS朝礼拝 9:15

◎ 主日礼拝 10:30

メッセージ『』

聖書:旧約:列王記下 4:32-37(P.583)

新約:マルコ 2:1-12(P.63)

讃美歌 17, 446 459, 25

交読詩編 147:1-11(P.164/160)

司会:徳島恵子 奏楽:川名ひさ子

《予 告》

◎ 群馬地区 2.11. 集会 11 日(水)10:30

「平和共生を歩むパレスチナ」

講師:村山盛忠先生 於・高崎教会

◎ 2.11. 市民のつどい 11 日(水)13:30

映画『靖国 YASUKUNI』 県教育会館

《報 告》

### ◎ 2.11. 教会内外の集会

教会では 2 月 11 日を「信教の自由を守る  
日」と呼び、平和集会等を開催してきました。今  
年も地区の集会、市民集会が予定されていま  
す。どうぞお出かけ下さい(予告欄)。また関東教  
区の他地区でも 2.11.集会が行なわれます。一  
覧をまとめて掲示しました。どうぞご覧下さい。

### ◎ 群馬地区教会協議会 (1/18)

新潟地区・三条教会より信徒 5 名と代務者の  
長倉望牧師(本務は新潟教会)が来会。兼務の  
現状についてお話を聞きました。三条教会で  
は活動が立ち行かなくなったら解散しようと、教  
会解体経費を積み立てておられたそうです。と  
ころが目標額に達したことによって「いつでも終  
われると思ったら自由になった」と語られたのが  
印象的でした。それから将来のことで悩まず  
に、今置かれている状況を受けとめて、今を大  
切にして生き生きと教会生活を続けている様子  
をうかがいました。前橋教会は現時点では兼牧  
を受けることはありませんが、送り出す側になる  
ことはあり得ます。その際、無牧師の教会と同じ  
課題に向き合うことになります。牧師が不在でも  
信徒だけで礼拝をささることを、前橋教会でも  
考えていきたいと思います。

### ◎ 地区婦人部臨時役員会議 (1/30)

高崎教会において行われ、婦人部総会を3  
月(現行)から5月に移行することが決められまし  
た。また交流の集まりは壮年部とも共働して行  
なっていく方向性が提案されました。次期の婦  
人部委員の選任は難渋しており、各教会で持  
ち帰って再度話し合うことが求められました。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献 金
主 日 礼 拝	49	26	22,661
紅雲町集会	9		
地区婦人臨時役員会議	4(前橋)	36(全体)	

《メッセージ》「近くにある神の言葉」

申命記 30:11-15(1 月 25 日)

▼申命記は「ふたたび(申)命じる」という意味の書名である。出エジプトの出来事によって民を解放し自由へと導いた神は、モーセを通して民との間に契約を交わす。これが十戒・律法であり、具体的には出エジプト記・レビ記に記された律法の条文である。▼その後民は約束の地に入るのに 40 年の間荒れ野をさすらう。そしてよいよその地に向かうとする際、モーセが再び律法の教えを語って聞かせた...それが申命記である。▼出エジプト記・レビ記に記された律法よりも普遍的だと感じる内容となっており、前者が祭儀や生活についての細かな指令(How to)の内容が多いのに対して、後者は「なぜこのことをするのか(Why)」ということが記されており、読んでいて馴染みやすいものとなっている。▼申命記特有の言い回しがある。「わたし(神)はあなたたちの前に祝福と呪いを置く」「命と幸い、死と災いをあなたの前に置く」...ちょっとギョッとする表現だが、示された律法は強要するものではなく、従うか従わないか、選ぶのはあなただよ...ということである。▼神は人間をご自分の操り人形にしようとするのではなく、決断を下す主体性を認めて下さる方である。もちろん人が罪を離れて生きることが望まれるが、その道を無理やり強制するのではなく、個々人が良く考えて自分で選ぶことを望まれる。その意味で、逆説的に言えば「罪を犯す自由も認めておられる、ということだ。▼今日の箇所では「神の言葉はあなたの近くにある。天の彼方、海の彼方にあるものではない」(12-14 節の要約)ということが言われている。「神の言葉・神の戒め」などというと、高尚な日常から離れたところにあるもの...日曜日の午前中だけ聞くもの...そんなイメージがあるかも知れないが、人と神の言葉の関係はもっと身近なものということだ。▼15 節では先の言葉「命と幸い、死と災いをあなたの前に置く」という言葉が記される。これを受けて「神の言葉を聞かない者には死と災いが臨む...」などと脅すようなことは言いたくない。しかし、それを聞く者・聞こうとする者には命と幸いに至る道が示されることは信じたい。▼そうは言っても、その神の言葉とはどんなものか。どのように聞こえて(響いて)来るのだろうか。「神の言葉は聖書に記されている」といっても、この分厚い本のメッセージをすべて記憶することは不可能だ。どのようにして私たちはそれを身近に感じればよいのだろうか。▼ひとつのアイデアがある。「キャッチコピー」を作ってみる、というやり方だ。聖書が示す様々なメッセージから、短い言葉で心に響く・考えさせる、そんな言葉をいくつか作ってみる。ちょうど、あの「お寺の掲示板」のように。そしてその中から「今日はこの言葉をテーマに生きてみよう」と選んでいく。そうすることによって、神の言葉・戒めを自分の身近に感じて生きていくことができるのではないのか。▼私たちが生かす導いてくれる「神の言葉」を身近に感じよう。